磐城公論

毎月(二回)十五日・三十日發行
福島縣石城郡平町研町十九
編輯兼發行人　山田政好
福島縣石城郡平町紺屋町十五
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町研町十九
發行所　磐城公論社
電話四〇八番
廣告料　五號活字詰一行五十錢
場所指定十錢增
定價一部十錢　一年貳圓四十錢

濱口首相に寸言を呈す

主幹　山田　綠雨

此度、濱口閣下は、大命を拜授して民政黨内閣を組織せられた不肖は民政黨員として吾黨内閣の出現に對し衷心より歡喜に堪ゐざる次第であります。

閣下は過去十數年間即はち立憲同志會、憲政會、民政黨を通じて政黨政治家として慘憺たる試練を受けられ、鋼鐵の如き强意と超人の如き雄心を以つて惡戰鬪苦されて來ました。

閣下の崇高なる人格に對し、玆に滿腔の敬意を表し、絶對の信頼を捧ぐるものであります。

今や全國三百萬黨員の歡喜は高潮に達し到る所に組閣成立祝賀會が開催されつゝあります。

さりながら吾黨の主義、政策を徹底理解せざる人々は吾黨内閣の出現を謳歌いたしませぬ。

所謂緊縮政策に對して不景氣來の嘆聲を擧げ、港灣、河川道路改修事業の中止又は天引に對して彈擊の叫びを擧げてやみませぬ是れ畢竟するに政友會こその一黨の集團より發せらるゝ俗論愚言ではありまするが一人の聲はやがて千萬人の叫びとなり、遂に俗論は天下の公論を壓倒するにあらざるかと不肖は一片の杞憂を懷くものであります。

冀はくば、聰明果斷なる濱口閣下に於かせられては深甚なる御考慮を大衆公論と人心歸趨に拂はれ、而も國步艱難の現下日本の大局に善處せられ、日本帝國をして泰山の安きに置かれん事を熱切に願望するものであります。不肖は江湖の處士として此の東北の片端より　閣下に對し、最後に寸言を呈します。

速かに臨時議會を開いて民政黨の主義政策の可否を議院に計り、萬一にも吾黨政策を否とするものたとひ一名にても多き時は即時議會を解散して信を八千萬同胞に問はれん事を熱求するものであります。斯くしてこそ立憲政治家としての絶對模範を内外に明示するものと不肖は考へます。

敢ゐて一文を草して、閣下の明斷を仰ぎます。

辭達せず、意盡きず加之亂言蕪辭を列ねたる段恐縮多謝いたします。

東都漫觀

いさゝか思ふ次第あつて、自分は本月三日疾風の如く東上した。

關東大震火災後滿六年、鄕土のソイルの香に親しみ、故山三萬大衆の中に生き碌々瓦礫の樣な凡生活を繰り返し又繰り返して來た自分ではあるが、しかし心頭去來の斷感は大震災後面目一新した復興の「新東都漫見」のそれではあつた。

身邊の俗事雜件に捉はれ、此の一事なか〳〵に果されず今日に及んだ。

七月一日！　田中大將とその一黨は、天下公論の裁斷により、敗軍の將及び卒となつて政權より離れた。そして

上御一人の信頼と下八千萬同胞の絶對支援を得て

民政黨總裁濱口雄幸氏は決然起つて内外多事多端國步艱難の奔湍激流に身を躍らした濱口氏の意氣何ぞ壯烈なるぞ、又その心事何ぞ沈痛悲壯なるぞ!?　端的に云へば古語の所謂「烈士暮年壯心旺」であるさはれ、自分は此の機逸すべからずとして疾風の如く東上した。

組閣成立祝賀會漫景

上野山頭精養軒さして推し寄せ殺到し來る大群集は帝都並びに全國の民政黨政治ファンである。

定刻午後一時より、爆竹の激音に「濱口内閣成立祝賀會」は開かれた。

大小の政治家、天下の論客滿堂立錐の余地なく會場に充滿した。

濱口首相は謹嚴なる態度、壯重なる口調を以つて簡明に演說された。

十數年前桂内閣當時、大藏次官時代より、すなはち壯年の濱口雄幸氏を知る自分としては、無量の感慨に耽らざるを得ない。

今まのあたり見る濱口氏は一國の總理大臣となられ人氣の焦点に立たれた。難局の日本を救はんとの愛國的感激は沸騰して、その兩頰は紅潮して居る。

將に青年三十の心意氣であるが、しかし、その白髮は過去十數年來政黨政治家としての慘憺たる難行苦行を表現する唯一の證左ではないか!?

新聞社寫眞班の青年記者は數十名一齊に立つて壇上のライオン首相を撮す。マグネシウムの爆音、ポン〳〵と亂發する。

場内は煙につゝまれる。萬雷の如き大拍手は起る。ドット萬歲の歡呼は擧る。

まさにドラマチカル・シーン(劇景)である。

× × ×

安達鐵血内相スックト壇上に現はれた。又も萬歲の歡聲は連呼された。東北の西鄕、藤澤代議士も民政黨を代表しての演說があつた。自分と同じく東北出身の藤澤氏に對しては殊更に親しみの感情が湧出してやまない。

とやかくするうちに會は終りに近づいた。

比佐代議士の姿を物色して隈なく探し求め遂に精養軒階上、總裁室内に發見した。

永井代議士例の落ちつき拂つた態度で比佐氏の近くに居られる。松田、賴母木、等々の面々居並ぶ。

鄕里へ遊說に來られた人々だけに何となくなつかしさを感ずる。自分は諸先輩に懇篤に挨拶して會場を去つた。

銀座風景管見

銀座街頭ペーブメントの上斷髮のモガは、脚線美を表現して足並揃えて歩く。

彼女等は、そも、どんな人生觀をもつ？　戀愛は彼女等にあつて一個のビジネスか!?

とに角彼女等の出現は、われら田園人にとつては一種の驚異であり又現代の男性にとつては一大脅威である。

彼女等の或ものは「人形の家」をすてゝ、個性の尊嚴、男女平等、男女機會均等、婦人參政權等々、を血叫してその紅唇をふるはして街頭、壇上、紙上の人とはなつた。

瞥見すれば中性の人間の樣にも思はれる。

今自分は、銀座某喫茶店に冷しコーヒーを飲みつゝあるそして街頭を行く毛斷孃を眺めながら、時代の流れ―しかも音をもたてず忍び足に流れ轉ずる時代思潮の流轉を深觀内省して居る。

あゝ！　自分は現代において、とけぼれされてしまつた、時代後れの明治中期の廿五年の生產兒なのだ。急ぎ足で現代に追ひつかねばならぬ。

現代の文明を半ば嘲笑し、時代の文明を半ば冷罵し、故山歸來滿六年、一個の不平兒としてあつた自分ではある。

今や自已客觀の嚴正批判の立場に於いて過去六年の故山生活をば、コノ銀座街頭喫茶店のテーブルに腕こまぬいて思ひに沈む。

何たる生活悲劇の發生ぞや!?　何たる自已嘲笑のアイロニーぞや!?　又何たる自已客觀の批判の哲學ぞやだ!!

三十八の老書生、山田綠雨の生活革命は見事に斷行するコノ、テーブル上の斷感より（讀者よ！　あまりに多く自已の心事を告白しすぎるを寬容して下さい。自分は赤裸の心をそのまゝこゝに認ためのですから）

モガと老書生のコントラストは畢竟是れ新舊兩思想、東西兩洋、新舊兩時代の對照ではあるまいか。

大森海岸太洋に直面して

苦熱を犯し、疲勞を忍んで流るゝ汗をふきながら連日の東奔西走、或は首相官舍に、或は民政黨本部に、又は早大の舊友を、等々と朝から晚まで飛び廻り、さすが頑健鋼鐵の如き健体の自分も心身共にクタビレ果てゝしまつた。

上京後滿六日入湯しない。

さらば玉川の清麗に浴せうと手拭片手に湯屋へ……。

清爽な潑溂たる氣分を抱いて大森海岸の岸壁に行む。

吹きおくる潮風面を撫して爽快極まりない。

仰いで天日を、俯して水を見入る。初夏の海、處女の如く胸を張つて、われに敎へる。

「高遠なる理想を抱いて、汝の道を果敢に進め」

「海と陸とは永遠に鬪爭してやまぬ。海は不斷に陸を呑吐せんとする。陸は不斷に海を押し返す。人間社會それだ!!

人種鬪爭、階級鬪爭、國家戰爭、經濟鬪爭、男女鬪爭、政治鬪爭、思想鬪爭、理論鬪爭鬪爭より鬪爭へだ。永遠の平和は永遠に招來しないのだ。

山田綠雨よ！　ヘコタレルな、絶望するな。希望をもて勇敢に鬪爭場裡の花形鬪士となれ。太東京は汝の活躍する絶好の場面だ……」

初夏の海はしめやかに、私にかく呼びかけてやまぬ樣だ。それからそれへと思はつゞく、あゝ！　此の大森海岸を打つ波はやがて故山の海岸を打つだらう！　故鄕の人々は如何!?　老父母はどう!?　姪甥はいかに!?……

終りの言葉

本紙の讀者よ！　終りに寸言を申しあげます。自分は九月より東京と平を半々位に生活する事になります。磐城平は自分の祖元以來數百年來の故鄕であります。これまで同樣に「鄕土に捧ぐ」私の熱血には變りありません。

されど「大日本に捧ぐ」私の愛國的感激は東都進出の一擧となりました。

此後共何分よろしく御指導御鞭韃御聲援の程を熱願いたします。（十三日記）

管見……と……彈擊

◎賣女政治家床次君「汝はいづくにゆく」我が輩は故の古巣に舞ひ戻つたのだと冷然として言ひ放てばそれまでの話。だがしかし、昨日は東、今日は西と浮草の樣に風のまに〳〵流れ轉ずるが如き、その日暮し主義の政治生活の態度は、立憲政治家として絶排せねばならぬ。

朝に夕に源平藤橘、猫杓子の漂客を送迎する貞操絶無なる賣女ならばいざ知らず苟もその昔、十數年前内務次官當時第二の西郷とまで青年憧憬の人物であつた床次君が賢妻を失ふて後のテイタラクは一体全体どうした事か!!

記者は君の昨今の態度を唾棄する。「日本青年の名に於て」斷然彈擊する。

◎記者は東都を管見漫觀して來た。東京はインスピレーションの都であると共に罪惡と僞善と虚榮の巷である事を痛感した。

天下第一流の人物、建物、富豪、等々の天下第一のものは嚴然、豪然、壯然として存在する。

記者一日、東京の中心、神田鍋町、三菱銀行神田支店屋上庭園より大東京を俯觀した。國技館は彼所に、九段の大鳥居はあれに、三越はあそこに愛宕山は彼方に見える。街頭には電車、自動車が不斷に疾走する。

脚下を見れば、怪しげなる扮裝したるダンサーと孫まである禿頭の老人が組みつ放れつのダンスをやつて居る所謂ダンスホールの場面である。記者は無心なれども熱心にダンスする老人とうら若きモガ式ダンサーのダンス風景を見入つた。その反對の方向には地下鐵道作業に從事する勞働者が眞夏の炎天下玉の汗を流して働いて居る。

何たる皮肉な對照であらう。ダンスも是れ一個の神聖なる筋肉勞働といへばそれまでの話ではあるが、彼と此との勞働作業狀態と心理が千里の懸隔があるではないか!?

一方はピアノに合せて高樓に舞踏し飛躍し他方は地下に流汗淋漓として暗黑の中に命がけで勞働する。

文明の一面、文化の斷層にはかくの如き一場面も存在する事を銘記した。

◎東京の新聞記者はよく働らく一日某新聞社を訪れ寸暇なく立ち働らく記者諸君に滿腔の敬意を表した。

敏速、正確なる記事報導をモットオとする新聞の使命を果さんとならば、政治部、社會部たるとを問はず手で書かず、足で書く意氣組みすさまじく活動せねばならぬ。お座なりの玄關記事や、糊と鋏とそして東京新聞の切拔き專問を勇敢にやるソンジョソコラノ權威なく價値なき新聞イヤ舊聞では新聞紙としての生命がない。

敢えて問ふ。在平記者諸君中東都大新聞記者として勤まる人、飯の食へる仁果して何人ありや。

諸君も余も深觀内省一番すべきでないか!?他山の石だ。以つて我が玉を磨くべしだ。

「生意氣云ふな、囈語拔かすな。俺は天下第一流の記者樣だ。東京は愚か、ロンドン、タイムス、へ入つても大丈夫だ」

と、自己陶醉なさる御仁あらば勇敢に名乘り上げて下さい私は毎日通ひますから。

◎謹白

次號は、東都進出記念號を出します。

就ては、記念出版として「**緑雨小集**」並びに自作小說「**歸去來**」を賛援者各位に贈呈して小生の故山に於ける最後の文化事業の結論と致します。

山田　緑雨

賛援者各位

比佐昌平
林平馬
土浦町　岡本儀兵衛
野崎滿藏
鐘ケ淵紡績株式會社
小田吉治
諸橋守次
磐城セメント株式會社
片倉磐城製糸株式會社
湯本信用無盡株式會社
平運輸株式會社
小名濱大敷網漁場
豊間大敷網事務所
東部電力株式會社平營業所
小玉川水力電氣株式會社

磐城炭礦株式會社
入山採炭株式會社
小田炭礦株式會社
古河鑛業株式會社
平町々會議員一同
好間村々會議員一同
石城郡銀行組合
七十七銀行平支店
常磐銀行平支店
農工銀行平支店

磐城共濟病院
院長　難波睦
主事　賀澤忠治
會計　鈴木寶雄

久
釜屋商店
電話九・一三九

山崎合名會社
電話一〇・二七